

令和7年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立基目寺南小学校

1 総括

（1）教育目標

「考える子 心ゆたかな子 たくましい子」

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図り、規則や規範を大切にして共に生きようとする児童を育成する。

（2）本年度の重点努力目標

ア 人権教育の充実

- ・道徳教育を中心に全教育活動を通して人権教育を念頭におき、豊かな心を育成する。
- ・交流活動・体験活動を通して、相手を思いやる言動をとれる子を育成する。
- ・読書を通じて多様な考え方や生き方に触れ、豊かな人権感覚を身に付けさせる。

イ 生徒指導の充実

- ・規範意識を醸成し、児童が責任ある行動をとることができる自己指導能力を育成する。
- ・いじめ調査やQ-Uの結果をもとに教育相談活動を定期的に行い、いじめ、不登校の早期発見や未然防止に努める。

ウ 学習指導の充実

- ・発達段階に応じた学習規律を身に付けさせる。
- ・基礎・基本の定着を図る。（「漢字、計算コンクール」の継続）
- ・個に応じた指導を工夫し、できる、分かる授業を進める。（発達障害等に対する理解と支援）
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びのある授業を展開する。（ICT機器・タブレットの効果的な活用）

エ 家庭や地域社会や他校との連携

- ・地域の人材（ゲストティーチャー、読み聞かせボランティア、学生ボランティア、見守り隊等）や教材を教育活動に生かす。
- ・積極的な情報発信（ホームページ・学年通信など）を行う。
- ・幼保・中の縦の連携と小学校同士の横の連携を重視し、交流活動・情報交換を行う。

オ 健康・安全教育の充実

- ・安全に対する意識や危機に対する認識を深め、自ら安全に行動できる力や態度を育てる。
- ・あらゆる場面での緊急事態、災害等を想定し、危機管理を徹底する。
- ・各種カードを活用し、目標に向かって体力向上や健康管理を図る児童を育成する。

カ 多忙化解消にかかる業務改善

- ・会議資料の事前配付により、時間の短縮を図る。
- ・定期的に仕事内容の見直しを行い、業務の精選を進める。
- ・週1日定時退校日を設ける。

2 自己評価の実施体制

（1）調査時期 令和7年1月（保護者・児童・教職員）

（2）調査項目 別紙アンケート結果（保護者・児童・教職員）参照

（3）調査対象 有効回答者数

- ・保護者 202名
 - ・児童 232名（5・6年を対象）
 - ・教職員 36名
- 計 470名

3 調査結果

別紙アンケート結果（保護者・児童・教職員）参照

4 考察

- (1) **【児童が通いたくなる学校】** 保護者アンケート「子どもは楽しく学校へ行き、友達とも楽しく学校生活を送ることができている」及び児童アンケート「学校は楽しい」に対する肯定的回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）がどちらも昨年度に引き続き 90%を上回っている。また、「学校での学習や生活を通して、成長していると感じられる」に対する肯定的回答は、保護者アンケートにおいて 90%を上回った。児童アンケートでも、85%を上回り、昨年度から引き続きよい結果となった。「児童が自らの成長や自己肯定感を感じながら、児童が通いたくなる学校」づくりを今後も進めていき、児童アンケートの肯定的回答結果を更に上昇させていきたい。
- (2) **【交流活動・体験活動】** 保護者アンケート「学校行事からは、子どもが生き生きと活動している姿が感じられる」に対する肯定的回答、児童アンケート「みんなで何かするのは楽しい」についての肯定的回答が 90%を上回った。学校行事や日常の授業などで子どもたちは生き生きと活動することができている。
- (3) **【いじめの根絶】** 保護者アンケート「学校（先生）は、いじめのない学級づくりにつとめている」や「学校（先生）は、子どもたち一人一人を理解し、親身になって指導にあたっている」に対する肯定的回答が 80%程度であった。『いじめの根絶』に向けて、教職員の共通理解を徹底し、これまで以上に早期発見・早期対応に努めていかなければならない。児童アンケート「周りの子から、いじわるをされたり、いやな思いをさせられたりした」に対して「よくある」「少しある」という回答が合わせて 9.9%だった。昨年度の 10.6%からは若干改善したが、1割程度の子がいやな思いをしている。子ども同士のトラブルの際に手が出てしまうことも依然としてある。トラブルがあった場合には、丁寧な聞き取りをもとに、今後も教職員が一丸となって指導に当たり、いじめに発展しないように早期発見・早期対応を進めていきたい。また、保護者への連絡も丁寧に行うことで信頼を得られるようにしなければならないと考える。
- (4) **【分かる授業】** 保護者アンケート「学校（先生）は、子どもにとって分かりやすい授業をしている」に対する肯定的回答が 87%であった。また児童アンケート「授業に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答 75.9%、「授業がよくわかる」に対しての肯定的回答が 83.6%であった。今後も、分かる授業・きめ細かな指導の工夫を進めていくとともに、児童が物事を深く考えることができるような授業づくりを目指していきたい。
- (5) **【健康・安全教育】** 保護者アンケート「学校（先生）は、子どもの健康状態をよくつかんで適切に対処している」についての肯定的回答は 84.7%であった。特別活動や保健の授業など、さまざまな活動を通して、自ら健康に留意し、安全に行動できる力を今後も育んでいきたい。
- (6) **【家庭との連携】** 保護者アンケート「学校（先生）は、電話などで、家庭との連絡をきめ細かく行っている」に対する肯定的回答が今年度も 80%を下回った。個別に指導した内容などについて、電話や連絡帳などで家庭連絡を行い、家庭と学校とがより連携して、信頼関係を築きながら教育活動を進めていけるようにさらに努力していきたい。
- (7) **【読書活動】** 保護者アンケート「子どもはふだんから本を読んでいる（読書している）」に対する肯定的回答がここ数年、40%を下回っている。また、児童アンケート「本を読んでいる」の肯定的回答は 59.1%であった。読書は子どもの豊かな心を育むという面においても、学力を伸ばすという面でも大きな役割を果たす。朝の読書に加え、PTAやボランティアによる読み聞かせの充実や家庭とも連携しながら、読書活動に取り組みさせていきたい。
- (8) **【基本的生活習慣】** 保護者アンケート「子どもは、早寝早起き朝ごはんに気をつけて生活している」に対する肯定的回答は 70.8%で、昨年度よりややポイントが上がっている。「子どもは、家庭学習にまじめに取り組んでいる」に対する肯定的回答は 63.4%であった。子どもたちの健やかな成長のためには「基本的生活習慣の確立」が欠かせない。今後も家庭との連携を図っていききたい。

5 成果と課題

- (1) **【ア 現職教育の充実】** タブレットを活用した授業づくりについては、児童も教員もさまざまな機能を用いて、場面に応じた活用が定着している。来年度以降も、個に応じた指導や協働的な学びの充実につながる多様な指導方法について、職員間での共有をさらに進めていきたい。
- (2) **【イ 学習指導の充実】** わかる授業、きめ細かな指導を心がけ、今後もより一層、学ぶことの楽しさと充実感が味わえる教材開発が必要だと考えている。「漢字・計算コンクール」の継続的な実施は、基礎学力の定着に効果を上げている。また、学習規律を徹底し、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組むことのできる雰囲気づくりを学校体制で行っていく必要がある。
- (3) **【ウ コミュニティ・スクール、家庭や地域社会や他校との連携】** 一昨年度から始めたプール見守りボランティアに加え、今年度は登校見守りボランティア、校外学習見守りボランティア等、ボランティア活動の充実を図ってきた。ボランティアに参加した保護者等からは、「日頃の学校の様子、学校の様子を見ることはできてうれしい」「ボランティアに参加できる機会をつくってくれてありがたい」といった感想をいただいている。来年度以降も、さらに積極的に取り組むことで、家庭や地域との連携をより深め、学習活動を充実させていく必要性を感じている。
- (4) **【エ 健康・安全教育の充実】** 朝の登校時の見守り等、交通安全への意識を高める機会を得ることができた。年に数件ではあるが、交通事故が発生しているので、さらに指導の充実を図る必要がある。外部講師を招いて、命の大切さや安全な生活の送り方などを学ぶ授業も行っている。専門家の力を活用してこれからも継続していきたい。

6 改善策

(1) 現職教育の充実

- ・ 教師の力量向上にかかわる研修を行い、主体的・対話的で深い学びを日々の授業で具現化していきたい。児童の学力向上には、日々の授業が大切である。甚目寺南小スタンダードを今一度見直し、日々の授業を通して学ぶ楽しさや分かる喜びを体現できる授業づくりを目指していく。
- ・ 校内のICT環境を充実させ、業務改善を図っていく。ICT機器を有効に活用することで子どもたちが学習内容を深く理解できる授業づくりを進めていきたい。
- ・ 来年度もQ-Uアンケートの結果を学級作りの参考にするためQ-U研修を行う。また、子どもたちの自尊感情や自己有用感が育まれているかを確認することでいじめや不登校の未然防止に努めていきたい。
- ・ 依然として些細なことでトラブルに発展することが多い。道徳や学活等の指導を中心に子どもたち同士の人間関係の構築力やトラブルになったときの解決方法や自分自身の気持ちのコントロールの仕方についての指導に引き続き注力していきたい。

(2) 基本的生活習慣の確立

- ・ 子どもたちの家庭環境は様々だが、子どもたちの自立のために、基本的生活習慣についての指導、支援を一層充実させていきたい。来年度以降も、学校では、「早寝・早起き・朝ご飯」「あいさつ」「マナー」などについて、PTA総会、懇談会、各種たより等での啓発を継続する。引き続き、養護教諭、栄養教諭、保健師等の専門的な立場からの話を聴く機会も確保する。
- ・ 子どもたちが落ち着いた生活を送るためには、学校生活の中心である授業における学習規律の徹底は欠かせない。学習規律について、今一度確認し、学習環境を整えていきたい。

(3) 地域とともに歩む学校

- ・ 子どもたちが地域や学校により一層の誇りを持ち、地域とともに歩む学校づくりを進めていくために、学校運営協議会やPTAを核として、開かれた学校づくりを進めていく。